広島森林管理署の現地検討会に参加しました。

令和２年１０月５日
広島北部森林管理署

10 月 1 日広島北部森林管理署では、広島森林管理署が主催した現地検討会に参加しました。

現地検討会は、伐採・搬出直後の植栽における低コスト造林とコンテナ苗の取り扱いをテーマに、広島県、森林組合、林業事業体等から総勢３５名が参加しました。

検討会は、林業事業体と森林組合の共同事業体が一貫作業で実行した事業地(国有林)で行われ、植栽を担当した森林組合からは、効率的な植栽が木材生産事業と連携してできたと説明。さらに枝条を含めチップ材として生産・搬出したこと、残った枝条も機械で作業道へ集積したことにより植栽が更に効率的に実行できたとの紹介がありました。

また、意見交換では「低コストも重要だが、現地の状況によっては地拵え、下刈りを計画・実行する事が必要。」などの意見が参加者からありました。

コンテナ苗の取り扱いについては、実際に苗畑に出向き、根の絡み具合、徒長しすぎていなかなどの点を直接確認し、良い苗を吟味した上でコンテナ苗を確保することが重要であること、良好な状態で保管することや、必要以上に山へ持って行かないことなどの留意点が紹介されました。さらには植栽時に枝条をかき分け、丁寧に植えるために植栽器ではなく、鍬(くわ)を使用していることなど独自の取組の紹介があるなど、施業した請負者の森林(もり)づくりの熱意が伝わってきました。

今回の現地検討会では、発注者である国有林から普段目に見えない請負者側の取組を知ることができました。

広島北部森林管理署では、今後も請負者と連携し効率的で低コストな森林(もり)づくりに取り組んでいきます。

説明する広島署担当者と参加者

説明に熱心に耳を傾ける参加者